



日本画

上野 幾子さん(49)

(釧路町)

釧新郷土芸術賞に輝く

受賞者の横顔

□中□

すべてが魅力

釧路市生まれで、北海道女子短期大学(現北翔大学)工芸学部卒業。道展のほか、北の日本画展に所属している。

自身を見つめ直す時間

芸美術科専攻科終了。1980年、道展初出品で初入選。その後、毎年のように入選し、89年新人賞を受賞。95年会友に推挙される。92年、94年、98年、2000年の4回、古画材すべてが初めての物でない。

思議な魅力があった」と振り返る。日本画は、パネル作りや絵の具の準備、下塗りや下絵など、実際に描き始めるまでに何週間もかかる。

「下準備の時間が長く、自分自身を見つめ直す時間をつくってくれるのが日本画の魅力」。言葉では表せないその時々、のたくさんの思いや考え

自分を表現したい

「夫婦そろってこのような賞をいただくことに感謝している。ここ数年は展示会のためにしか描いていなかったのでも、今回の受賞はもっと描かないといけないと背中を押されたような気がする。受賞を機にもっと真剣に自分の内面を見つめ直し、小さくてもいいからもっと自分を表現できる作品を数多くつくっていきたい」と張り切っている。

高校生の時からプロの漫画家になろうと思っていたが、大学で日本画と出会い、「今まで見たことがなかった岩絵の具や和紙など、さまざまな画材すべてが初めての物でない。」「結婚して24年。これまで続けてこられたのも家族の励ましや協力のおかげ」と感謝している。